

北村透谷 漢語 詩人、評論家。明治元年十一月十八日相模國生れ、

明治二十七年五月十八日自殺（二六六―歳）。本名門太郎。筆名すきや、

ほとろぎす、北洲寒生、函嶺山人、守少樓の小僧、某、桃紅、桃紅處

士、無性子、羊仙、脱蟬、脱蟬子、蘆水生、蟬生、蟬羽、蟬材子、谷

透生、透・蟬、透谷、透谷塵入、透谷子、透谷庵、透谷庵主、透谷生、

透谷蟬羽、透谷隱士、透谷隱者、門太郎、電影、電影庵主人、風雨子、

北村脱蟬、北村蟬羽、北村電影等。東京專門學校中退。明治二十五年

リスト教に入信し、翌年自由民権運動家石坂昌孝の長女ミナ（美那子）

と結婚。二十六年星野天知、島崎藤村、上田敏等と同人誌『文學界』

を創刊。この前後二年間に發表した評論等は百六十餘に及ぶ。『透谷

全集』（星野天知・島崎藤村編、明

治二十五年十月一日）文友館藏版、博文館發行

文館發賣）、『透谷全集』（島崎藤

村編、大正十一年二月十五日春陽

堂）、『透谷全集』全二卷（勝本清

一郎編、第一卷・昭和二十五年七月

五日、第二卷・十月二十一日、第三卷・二十年九月十日岩波書店）刊。

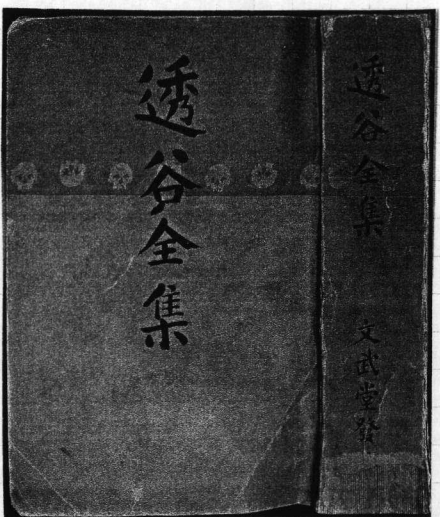
著書『楚囚の詩』（本名、明治二十二年四月九日春洋堂）、『第二國

民小説』（透谷庵主名、合著、明治二十六年六月一日民友社）、『マ

ルソン』（明治二十七年四月）二十四日民友社

『十の文豪』（『透谷選集』（大正二十二年十一月

十五日新潮社）『代表的名作選集』（『明治大正



詩選』（合著・詩話會編、大正十四年二月十二日新潮社）、『北村透

谷集』(島崎藤村編、昭和二年七月十日岩波書店「岩波文庫」)、
『北村透谷選集』(同、昭和四年二月二日改造社「改造文庫」)、
『北村透谷選集』(藤森繁論、昭和二年六月二十五日報文社)、
『藤森作品集』(合著、小田切秀雄編、昭和十二年九月一日八雲書店)、
『北村透谷選集』(勝本清一郎校訂、昭和四十五年九月十六日岩波書店
「岩波文庫」)等。

文獻、白田寛治著『註實透谷詩選』(昭和四年一月十五日金草堂「詩鑑
實叢書」)、
阪本越郎著『北村透谷』(昭和十五年八月二十五日弘文
堂書房「教養文庫」)、
笹淵友一著『北村透谷』(昭和二十五年七月
二十日福村書店)、
永畑道子著『雙蝶―透谷の自殺』(平成八年五月
十六日藤原書店)等。